

\*ハンセン病は、らい菌が起こす感染症。感染力が弱く、現在では完治する病気。皮膚と末梢神経が犯され、変色や変形を伴うことから、患者は差別され、国は1996年まで隔離政策を取っていた。

左の記事を読んで下の問いに答えましょう。

1 傍線部①②の漢字の読み方をひらがなで書きましょう。

①	②
---	---

2 傍線部③「園名」が、虐げの事実を端的に示すのはなぜですか。本文中から60字以内で抜き出し解答欄に合うように最初と最後の3文字を書きましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

につけたから。

3 傍線部④の意味を、次の中から選んで記号で書きましょう。

- ㊦敬意をもってそれに似た作品を作ること
- ㊧批判するためにまねすること
- ㊨流用すること

④
---

4 傍線部⑤とは何のことか。本文中から15字以内で抜き出し、解答欄に合うように最初と最後の3文字を書きましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--

だということ。

国立ハンセン病療養所には「祈りの場」の納骨堂があります。家族や故郷との絆を絶ちきられて、死んでも帰還が叶わなかった多くの人のご供養のために、せめてお名前を示せないかと思う一方で、その実現への道程が遠い現実があります。それほどまでに入所者への偏見・差別は厳しく、家族への迫害も激しかったのです。

療養所には、そうした虐げの事実を端的に示す名前にもつわるエピソードがあります。それが「園名」です。親からもらった本名とは別の名前で療養所の中で生きて入所者がいます。「園名」のまま納骨堂で眠る方がいます。

本名を知られて、故郷の家族に迷惑がかかることがあったら困るから、名前を変えることで家族や故郷への未練を捨て切るため、そんな入所者の断腸の思いが「園名」にこめられています。

## 随想

### 園名に込められた思い

黒尾 和久



語の舞台となった「油屋」は療養所のオマージュです。主人公の少女は、千尋という本名を奪われて、千という「園名」で子どもでも働かなければならない厳しい世界に隔離されます。

しかし、千は仲間の協力を得て、奇跡を起こし、千尋という本名を取り戻し、社会復帰を果たします。我と彼を隔てた水堀に架かる橋をわたり、千尋が外へ出て行くシーンは印象的です。千尋に手を振るカエル顔の小父さんや、おかめ顔の姉さんの姿があります。

ここに重要な隠しテーマが埋め込まれています。手を振る人たちにも本名があるのでは？ この人たちは外に出なくていいのか？ そんな疑問がわきませんか。そうです、千尋を見送る人こそが入所者です。そして「油屋」にも納骨堂があるはず。

物語の世界に託して、今はそんな心の納骨堂に名前の掲示を始めようと思います。「〇〇さん、忘れない」と誓いも新たに。

(国立重監房資料館部長)

## NIEワークシートのこたえ（2024年2月26日公開）

◆ワークシート「ハンセン病と『千と千尋』（国語SDGs10）」

2024.2.22付 夕刊 1面 随想 解答

- 1 ① くよう ② しいたげ
- 2 本名を～るためにつけたから。
- 3 ア
- 4 千尋を～入所者だということ。